

4 月	豊川 愛護モニター報告	モニター区間	豊川：左右岸 6.2km～17.8km 管轄出張所：豊川流域治水出張所
実施日		実施区間	吉田大橋～賀茂橋

4月になると、河川敷が草で緑色に彩られはじめ、木々の新芽が芽吹きはじめる。今年は季節の進行が遅いこともあってまだまだ風は冷たいが、風景的には春めいてくる。

ヨーロッパのサイクルロードレースを見ている時、パリ近郊の風景が映されていたのだが、この風景が、豊川のこの季節の風景にそっくりだった。そう言えば、この季節の豊川の風景を見た自転車仲間が「フランス印象派の風景画みたい」と言っていた。フランス印象派の風景画がどんなものかはよくわからないのだが、たしかに、パリ近郊の風景に通じるものがある。豊橋総合動植物公園にモネの絵画の雰囲気を楽しめる一角があるが、この季節の豊川はそれ以上にフランスの自然の雰囲気をも感じることができる場所になっている。



～タンポポ～



この時期になると、堤防道路や河川敷などでタンポポの花のピークを迎える。三上緑地では一面にタンポポが花を咲かせている風景を見ることができる。

タンポポは大きく分けて外来種のセイヨウタンポポ（西洋タンポポ）とこの地域では在来種のトウカイタンポポ（東海タンポポ）がある。両者の区別は慣れてくれば花びらのつき方（トウカイタンポポはセイヨウタンポポと比べると密度が低い傾向がある）である程度判断できるが、最も分かりやすいのは、花を裏側から見て、総包（花びらの外側の根元を包む部分）が反り返っているのがセイヨウタンポポ、花びらにくっついていてのが在来種のタンポポの特徴である。



一般的によく見られるのはセイヨウタンポポで、市街地では在来種のタンポポを見ることは稀である。しかし、豊川沿いに咲いているタンポポの多くはトウカイタンポポで

ある。すべてのタンポポの花を裏返してみたわけではないが、確認したもののほとんどがトウカイタンポポだった。これも定期的な除草が行われる環境と関係しているのだろうか。多くの場所ではセイヨウタンポポが優先種となっていることを考えると、少なくとも在来種のタンポポにとって豊川の河川敷はなかなか貴重な環境だと言えそうだ。



セイヨウタンポポ



在来種のタンポポ